

論文審査の結果の要旨

令和2年 7月 27日

申請者： 由 志慎

論文題目： 日本語と中国語の不定名詞句の対照研究

— 「誰か」, 「ある人」と “有人”, “有个人” を中心に—

審査委員会による論文と口述試験の審査の結果、合格と判断した。その要旨は次の通りである。

論文で執筆者は、日本語の不定名詞句「誰か」と「ある人」の分析と、類似した意味を持つ中国語の“有人”と“有个人”を分析し、さらに対照言語学的な分析へと発展させた。その背景には、これら4語の用法が十分に研究されておらず、それが中国人母語話者の日本語教育でも学習者の誤用を引き起こしているという現状がある。

「誰か」と「ある人」の分析で執筆者は、先行研究に基づいて指示の「定」、「不定」といった「指示性」を確認した上で、日本語のコーパスから得たデータを検討した。そして、「誰か」と「ある人」には助詞が後続する場合（「格助詞顕在型」）と後続しない場合（「無助詞型」）があることに着目し、「誰か」と「ある人」の「格助詞顕在型」と「無助詞型」それぞれについて、独創的な考察を加えることができた。さらに、この2語の使い分けについて、「構文的特徴」、「意味的特徴」、「主題化」、「談話的機能」、「指示性の性格」、「文体的特徴」の6点から比較し、違いを明らかにしたことも評価できる。

次に、申請者は、中国語の“有人”と“有个人”について、先行研究を参照しつつ、これらの「構文的特徴」と「意味的特徴」、「主題化」、「指示性の性格」について論じた。そこで“有人”と“有个人”の分析にもとづいて、従来の現代中国語の名詞句の分類に新たな形式を提案することができた。

そして、「誰か」と「ある人」、「有人」と“有个人”の対照言語学的な考察を行った。大別すると「意味的特徴」、「文法的特徴」、「指示性の性格」、「談話的機能」、「文体的特徴」、「対応形式と非対応形式」という観点から、これら4語を比較し、類似点と相違点を描き出すことができた。

口述試験は、令和2年7月24日（金）、城西国際大学東金キャンパス本部棟4階会議室において実施した。論文内容の発表では、論旨を明確かつ具体的に提示することができた。審査委員から、「誰か」と「誰かが」・「誰か」と「誰かに」の用法の細部、学習者の誤用例とその要因、「誰か」「ある人」が「対比」「列挙」を表す場合における助詞の機能との関係、今後の日本語教育への還元についてなど、多くの質問があった。これらに対して申請者は適切に解答し、今後の課題も認識していた。

申請者は、論文では日本語の分析と中国語の分析、対照分析のいずれにおいても申請者独自の新しい知見を提示することができ、口述試験でも優れた評価を得ることができた。

以上の理由から、本審査委員会は合格と判定した。

審査員（主査） 吉田 朋彦

審査員（副査） 原 やす江

審査員（副査） 板井 美佐

審査員（副査） 陳 岩（大連外国語大学教授）